

県内在住外国人等々の状況

多文化共生とは

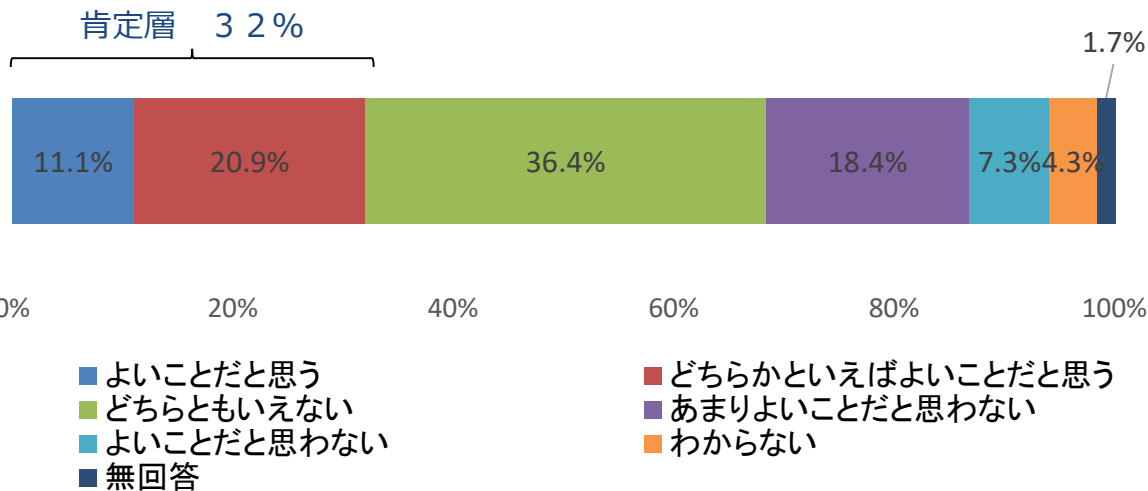
国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

(H18.3 多文化共生の推進に関する研究会 報告書)



在住外国人との共生について（県政世論調査）

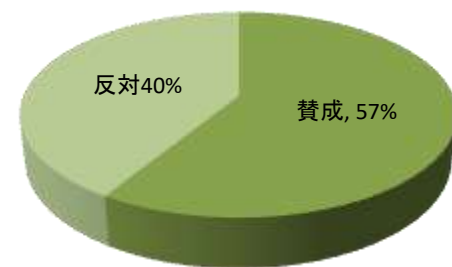
平成20年度



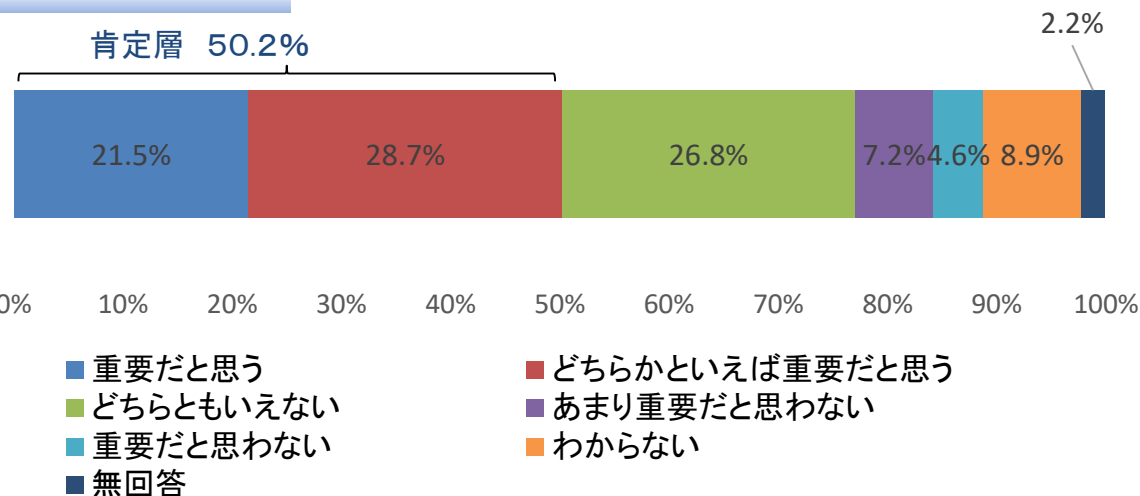
<参考>

外国人材に関する全国調査（読売新聞R1.5.5）

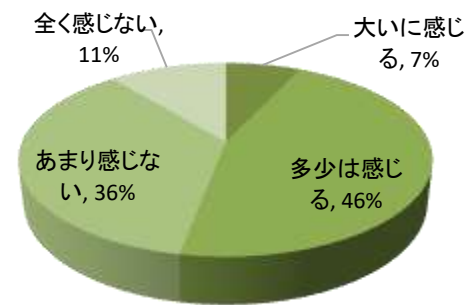
外国人労働者の受け入れ拡大について



平成30年度



外国人が近所に住むことへの抵抗感

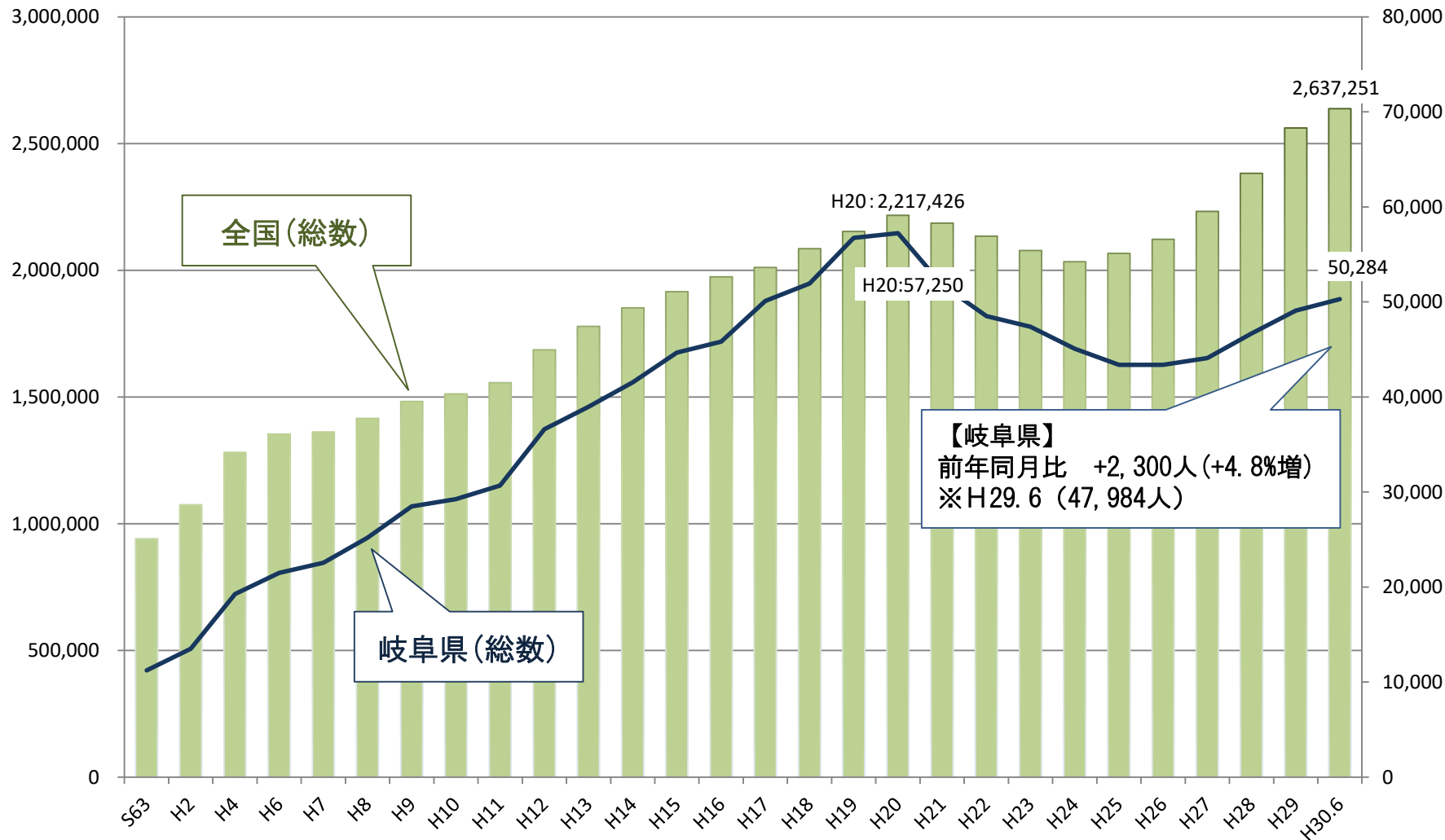


全国と岐阜県の在住外国人の推移

〔県調べ／法務省「在留外国人統計」〕
 各年12月末時点（H16～18は4月1日時点）、H30は6月末現在

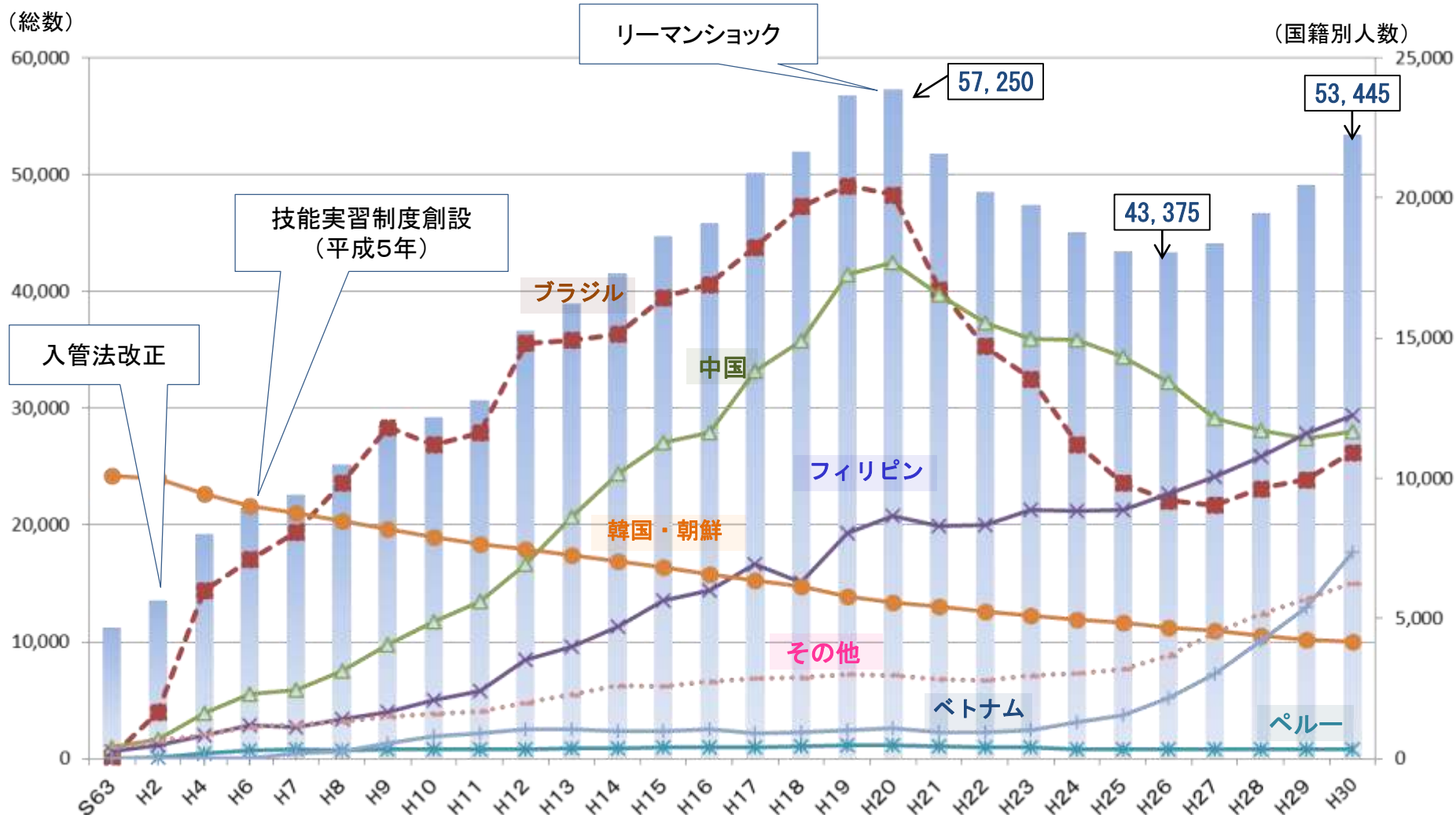
（全国、人）

（岐阜県、人）



県内在住外国人の総数と主な国籍別推移

〔県調べ／法務省「在留外国人統計」〕
各年12月時点（H16～18は4月1日時点）

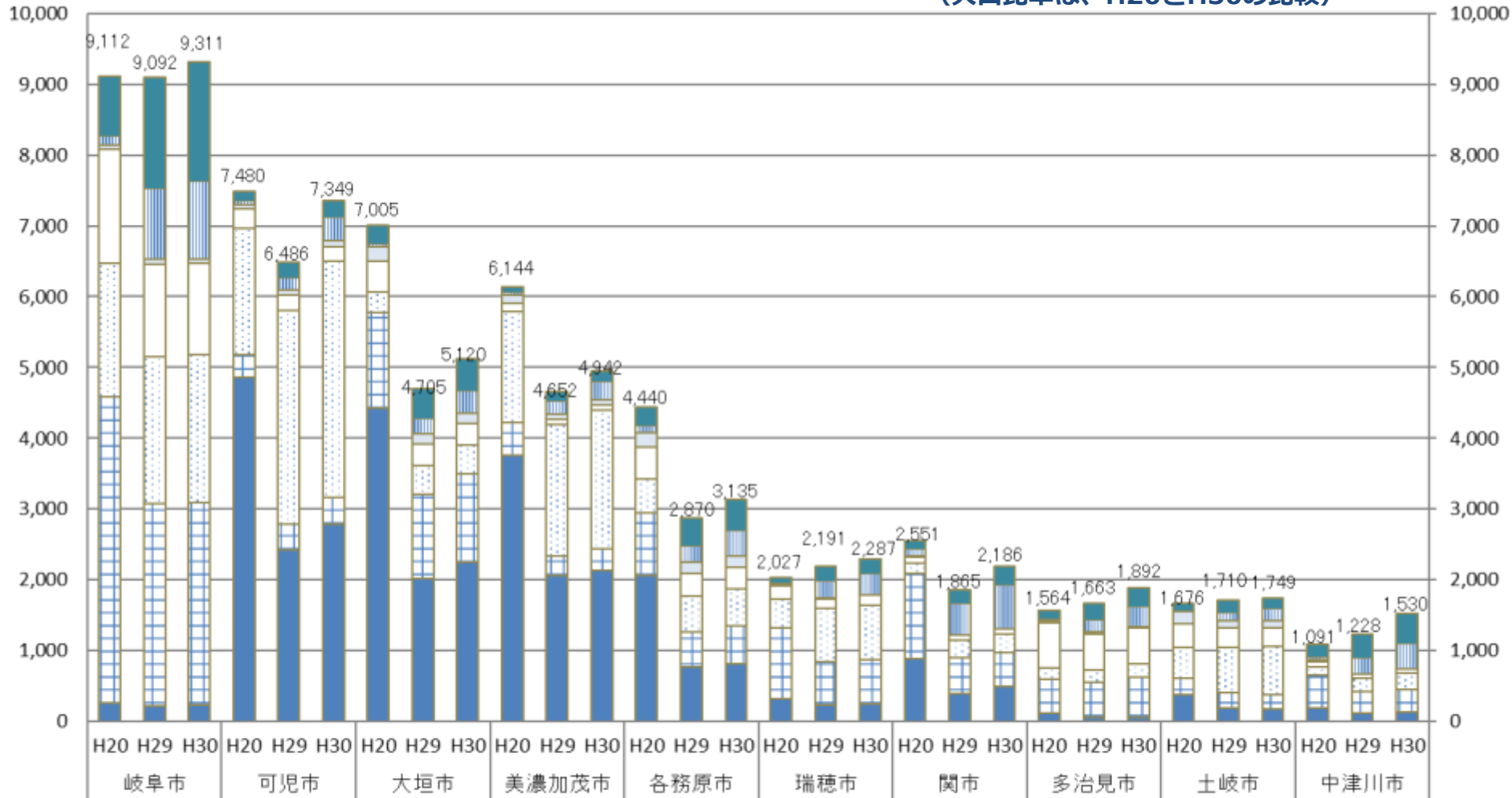


国籍別では、多い順にフィリピン、中国、ブラジル、ベトナム
「その他」では、インドネシア、ネパール、タイ、カンボジアなどが増加傾向

市町村別在住外国人人数（上位10市）

〔県調べH20は12月末、H29は6月末時点、H30は12月末時点〕※市人口は、人口動態統計調査（県統計課）[H21.1.1、H31.1.1現在の人口]

※H20（ピーク時）、H29、H30との比較
（人口比率は、H20とH30の比較）



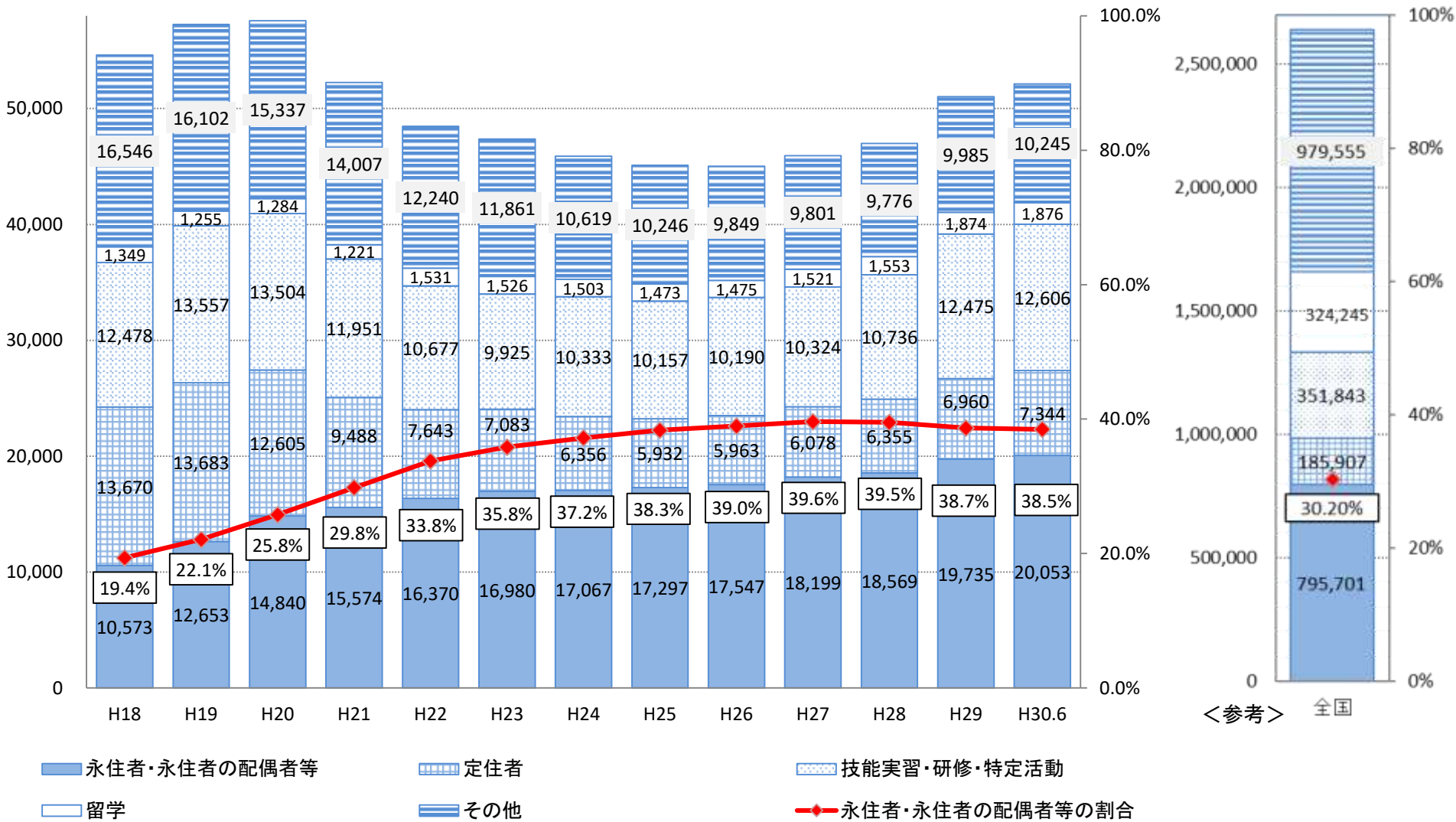
人口比率（％）
H20→H30

(2.2⇒2.3) (7.5⇒7.4) (4.3⇒3.2) (11.3⇒8.7) (3.1⇒2.2) (3.9⇒4.1) (2.8⇒2.5) (1.4⇒1.8) (2.7⇒3.1) (1.3⇒2.0)

■ ブラジル ■ 中国 ■ フィリピン ■ 韓国・朝鮮 ■ ペルー ■ ベトナム ■ その他

県内在住外国人の在留資格別推移

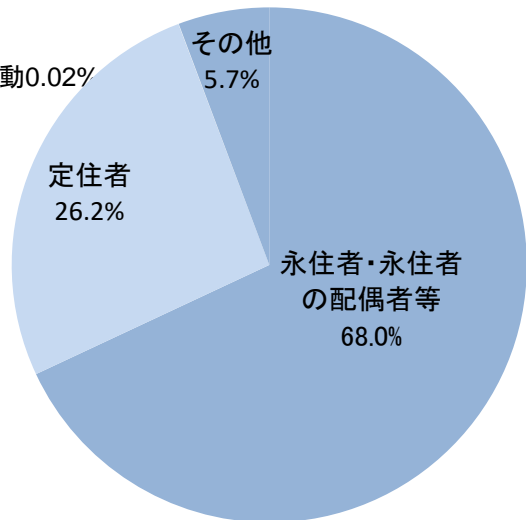
〔法務省「在留外国人統計」各年12月末、H30は6月末時点〕



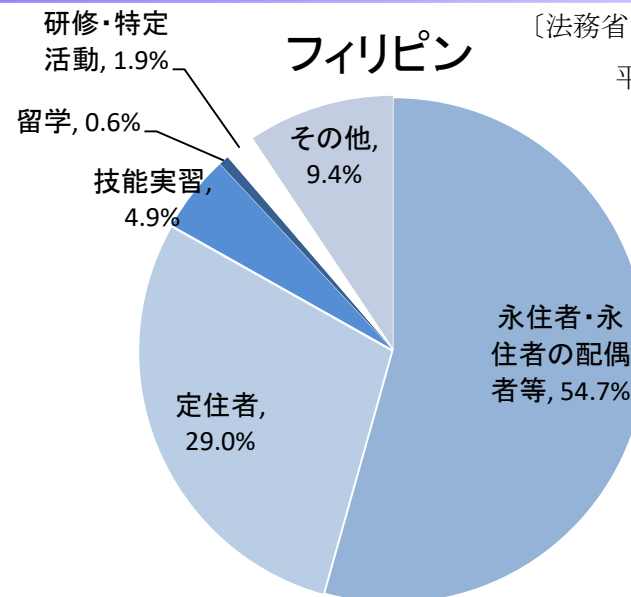
県内在住外国人の主な国籍別・在留資格別割合

〔法務省「在留外国人統計」
平成30年6月末時点〕

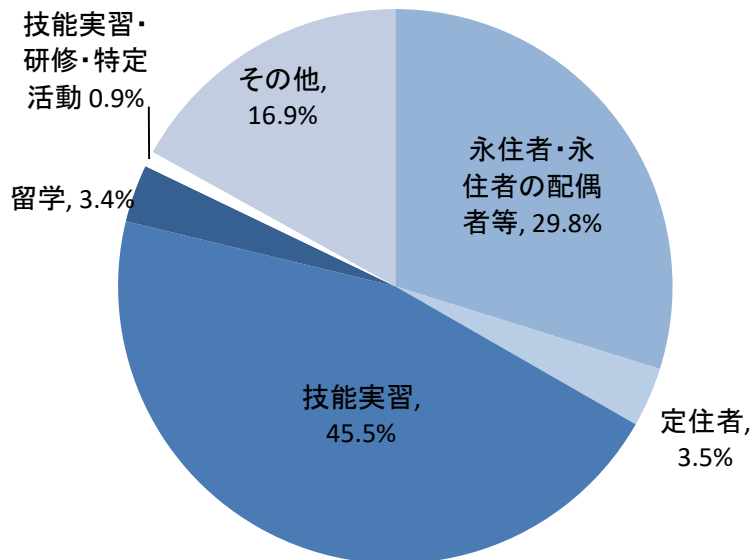
ブラジル



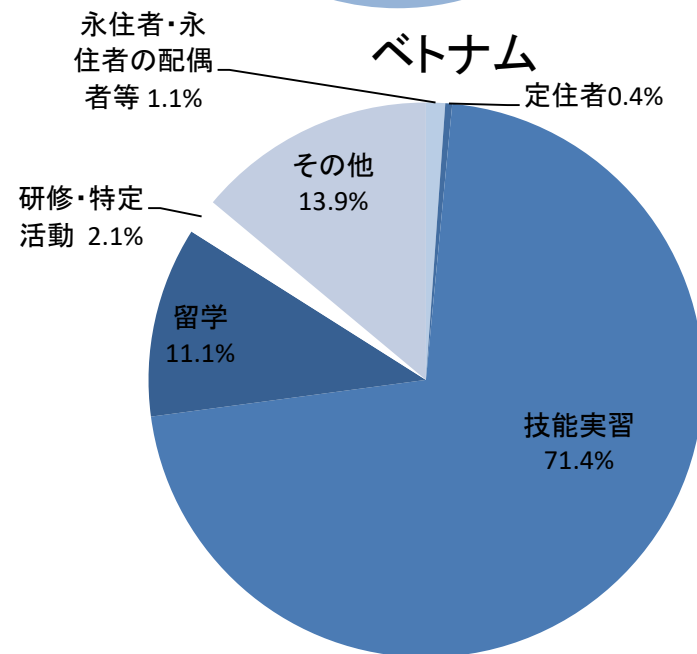
フィリピン



中国



ベトナム

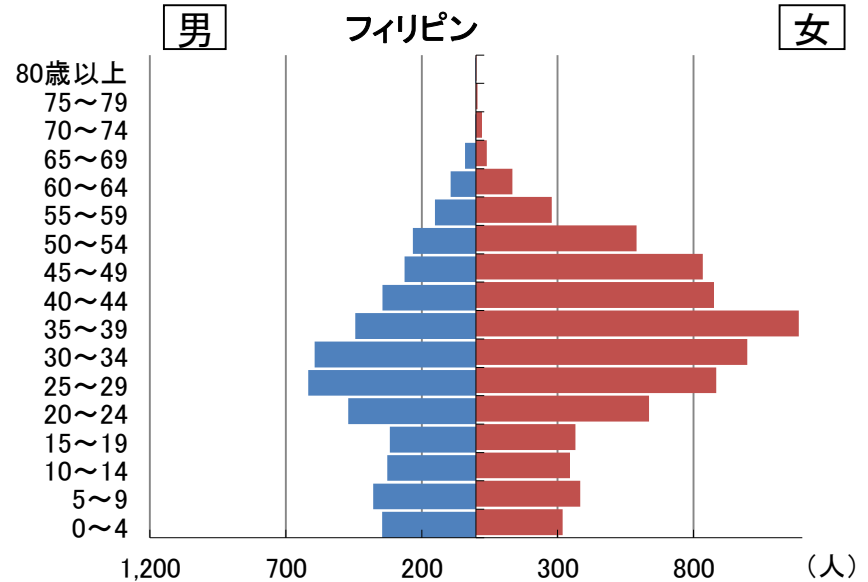
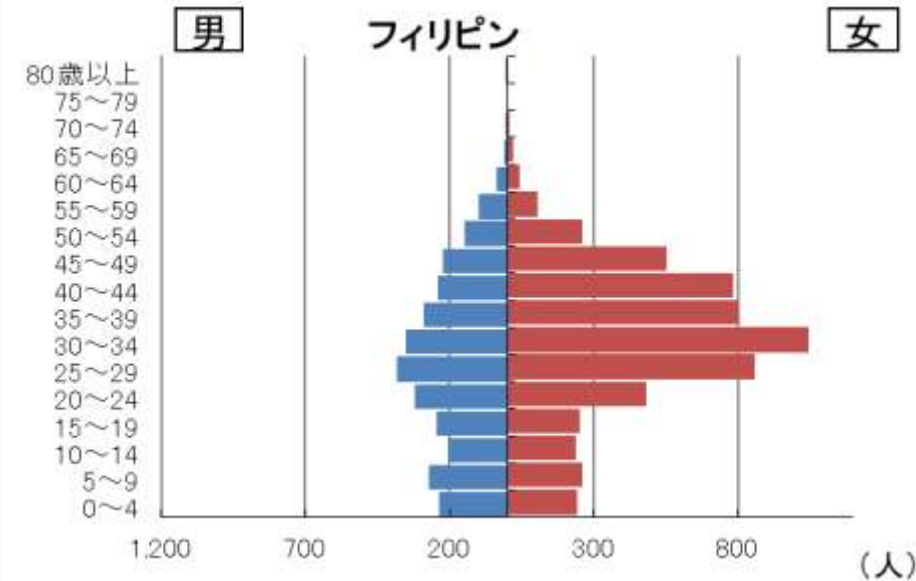
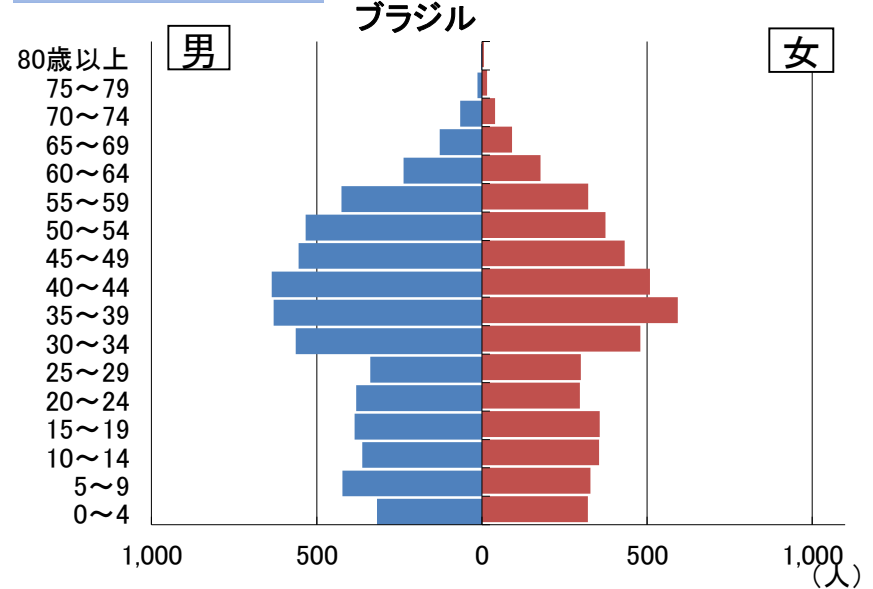
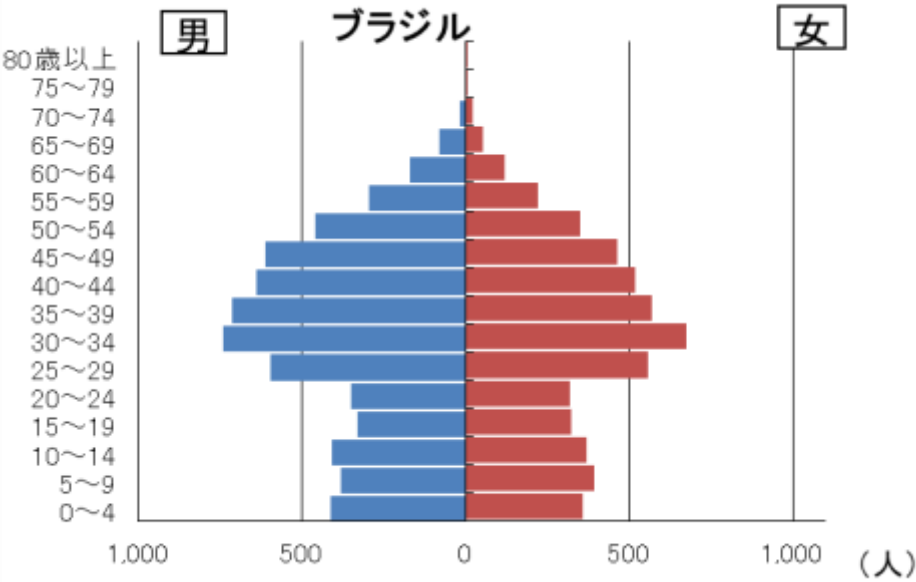


県内国籍別年齢構成（主な国籍別）

〔法務省「在留外国人統計」〕

平成24年12月末

平成30年6月末

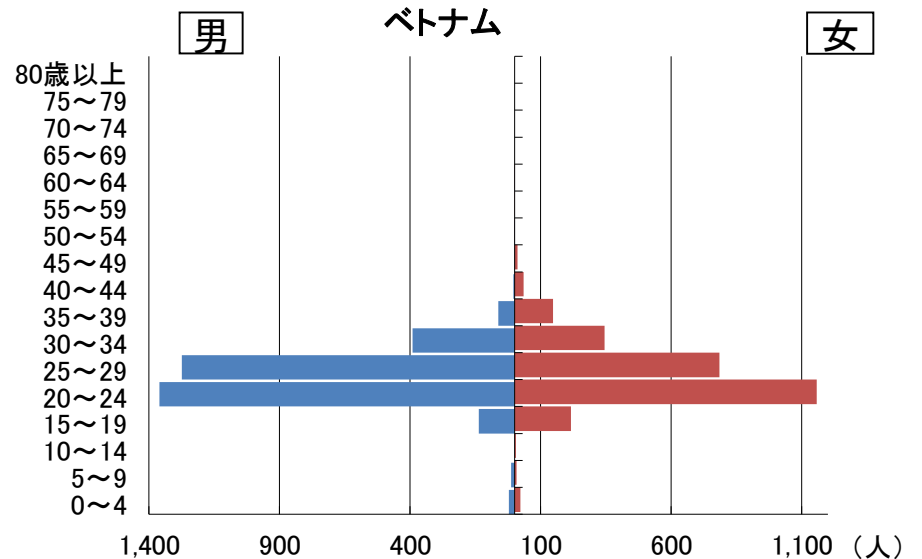
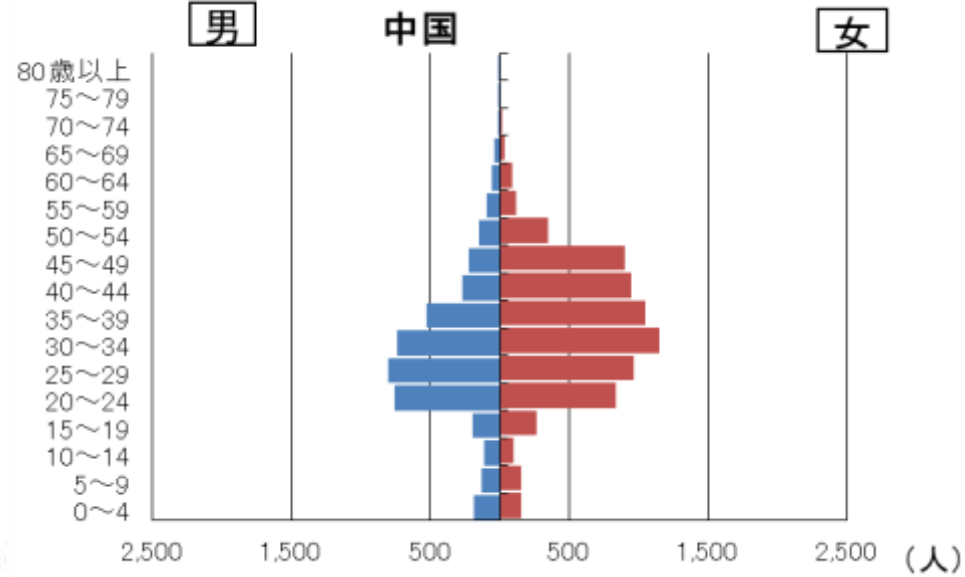
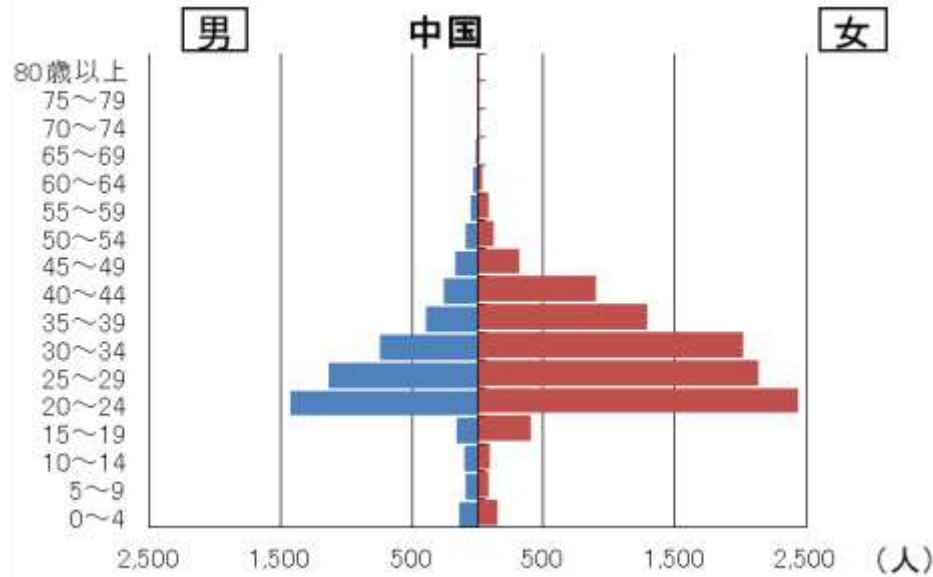


県内国籍別年齢構成（主な国籍別）

〔法務省「在留外国人統計」〕

平成24年12月末

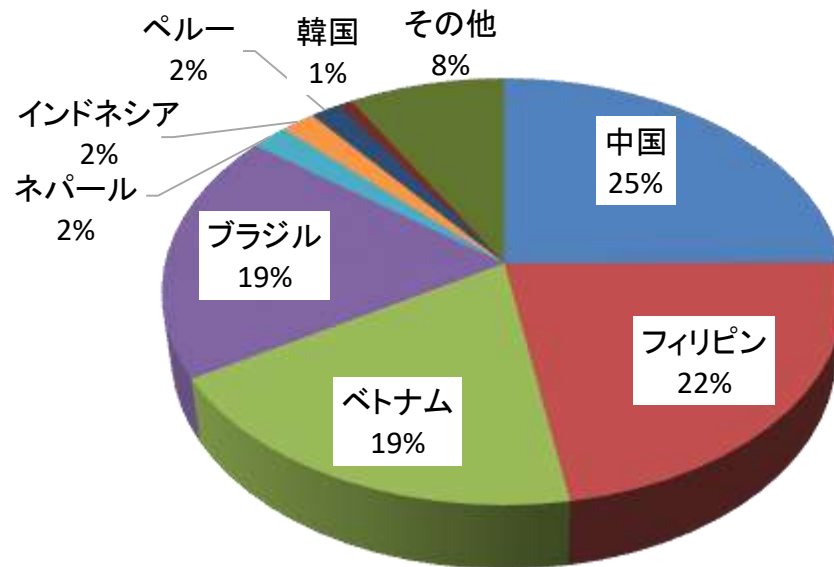
平成30年6月末



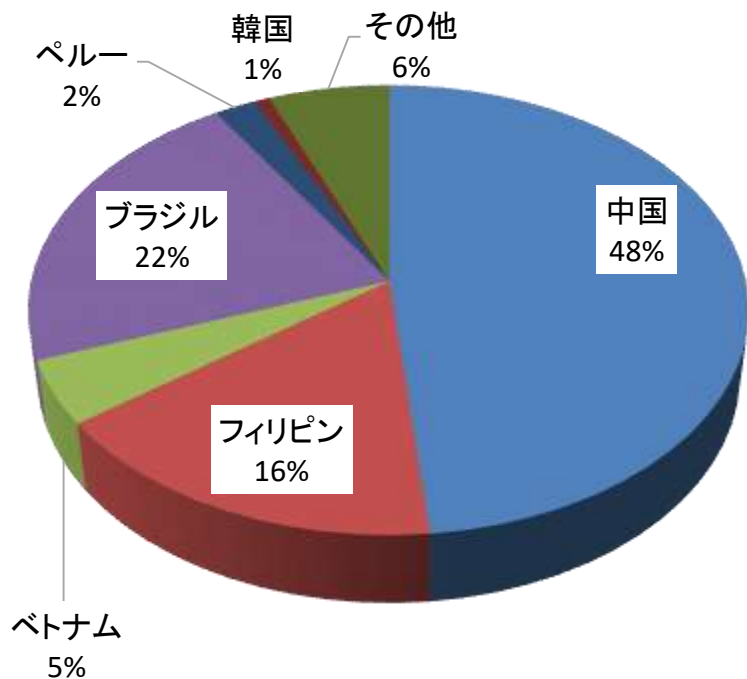
ベトナムの統計は平成29年から公表されている

在住外国人労働者の国籍別割合（H25とH30の比較）

平成30年10月



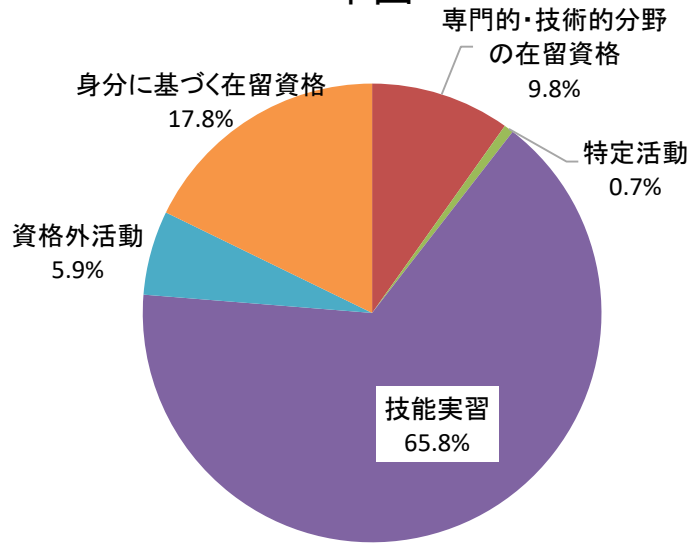
平成25年10月



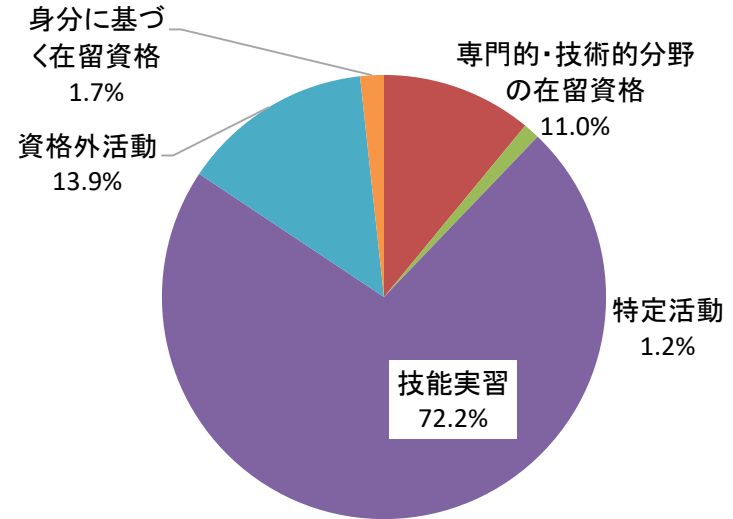
在住外国人労働者の在留資格

(主な国籍別：ブラジル、フィリピン除く)

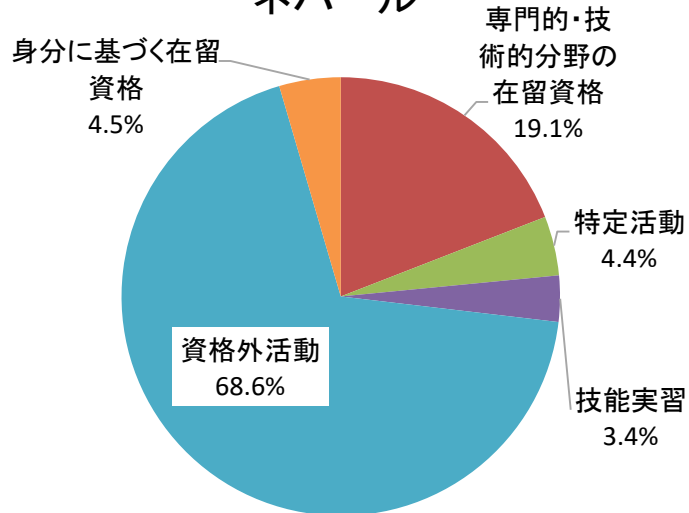
中国



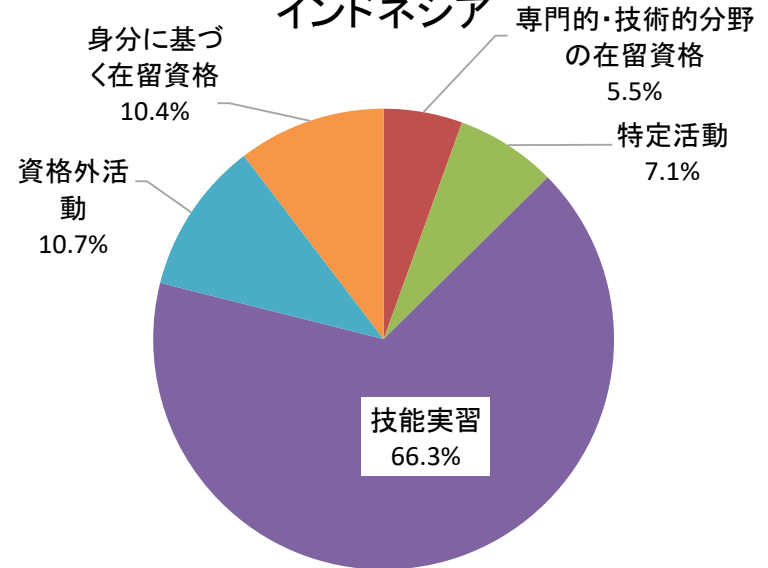
ベトナム



ネパール



インドネシア



公立小中学校における外国人児童生徒の動向

(人) ※在住外国人数ピーク時のH20年からの推移

[県教育委員会調べ 各年10月1日時点、H30は5月1日時点]

